

ハンドボール

特集

ジャパンカップ2010 第4回ビーチ世界選手権

85
AUG.2010・No.511



[表紙写真：ジャパンカップ2010、女子代表チーム・早船愛子選手]

財団法人 日本ハンドボール協会

<http://www.handball.jp/>



molten[®]
For the real game



For the real game

「プレーヤーの技術や意志が100%発揮される時、スポーツは本物になる」

私たちモルテン・ブランドは、この信念をもとに

世界に類のないボールと

スポーツエキップメント・メーカーとして

つねに完璧な製品づくりを目指しています。

日本リーグ唯一の公式試合球
全日本実業団連盟主催大会
唯一の公式試合球

H312 ヌエバ 国際公認球 検定球

軽い・人工皮革、3号球、ラテックスチューブ

H212 ヌエバ 国際公認球 検定球

軽い・人工皮革、2号球、ラテックスチューブ



www.molten.co.jp

株式会社 **モルテン** 東京本社 〒130-0003 東京都墨田区横川五丁目5-7

新しい小学校学習指導要領 の全面実施に向けて



(財)日本ハンドボール協会参事・学校体育検討専門委員会委員長 佐藤 靖

ハンドボールが小学生にとって良い教材であることは、実際の授業に参加して、子どもたちがボールや人と関わって自由に動き回ったり、生き生きした表情を浮かべたりするのを観れば、だれでも十分納得できます。しかもこのような良さは、これまで多くの場で発表されるようになった実践報告や実践研究のなかで、様々な視点から検証されてきた事柄でもあります。そして、特にハンドボールの教材価値を公的に示しているのは、文部科学省が告示する教育課程の基準、すなわち学習指導要領（以下、指導要領と記す）と、そのより詳細な事項を記載した指導要領解説における内容の変遷です。

平成20年3月に告示された指導要領の改訂の背景には、体育科の目標・内容を、(1)身体能力（体力と運動技能）、(2)態度、(3)知識、思考・判断、の3つの枠組みから整理し、それらを確実に習得させた結果として、生涯スポーツを営む資質や能力を保証しようとする意図がありました。その際、特に種目の多彩な広がりを見せている「ボール運動」や「球技」については、それらの内容を整理する必要性に迫られたのです。そこで、学習内容の明確化を図るために、戦術的な動きという視点から似ている種目を類型化し、子どもの発達段階に応じて適切な教材を評価し、選択できるように検討されました。その結果、小学校第3・4学年の「ゲーム」から高等学校の「球技」までの内容が、現行の種目名の列挙から大きく改変され、一貫して、「ゴール型」、「ネット型」、「ベースボール型」の3類型で示されるようになったことは特筆に値します。ここでは、個別の種目を越えて、同じ型のなかで共通に学習できる技能があるという認識に基づいて、それぞれの学習内容が明示されています。

ここで、小学校体育におけるハンドボールに関する記載を見ると、現行の指導要領解説体育編（平成11年5月）の第5・6学年の「ボール運動」については、内容の取り扱いで、「…ハンドボールなどその他のボール運動を加えて指導することができる」（p.90）となっています。一方、新しい解説（平成20年6月）の第3・4学年の「ゲーム」については、例示として、「ハンドボール、ポートボールなどを基にした易しいゲーム（手を使ったゴール型ゲーム）」（p.50）と明記され、第5・6学年の「ボール運動」については、内容の取り扱いで、「ゴール型」はバスケットボール及びサッカーを、「ネット型」はソフトバレーボールを、「ベースボール型」はソフトボールを主として取り扱うが、「これらに替えてそれぞれの型に応じたハンドボールなどのその他のボール運動を指導することもできる」（p.71）と変わっています。そして、「ゴール型」の例示として、「ハンドボール」（p.72）も明記されています。現行と較べると、ハンドボールの取り扱いがより重要視されるようになったことが一目瞭然です（下線は筆者による）。

総じて、種目選択の幅を広げながらも、型に共通する技能を系統的に育成しようとする意図はよく理解できます。とはいえ、その反面、実際の指導に際しては、各類型や個別種目間の差異を明確にしておかないと、それぞれの種目を教える意味がわからなくなります。我々指導者は、子どもの現状の把握とともに、個別種目に特有の運動特性に対する認識を欠落させることはできません。例えば、小学校第5・6学年の子どもが、ハンドボールでボールを受けるための動きを学習する場合、どのような目標像をもたせて、何を身につけさせるのかということが、指導上、中核的な問題となるからです。

新しい教育課程の基準は、平成23年4月から全面実施されることになっています。ハンドボールが主要教材に替わるものとして注目されるようになった今こそ、ハンドボールを伝承する場において、だれもが具体的な運動像を設定できるように、我が国の子どもたちの発育・発達に見合ったゴール型教材としてのハンドボールの構造体系と指導体系の構築を急がねばなりません。

ジャパン カップ 2010



【試合結果】

6月4日(金) 1日目

[女子] 韓国 (KOR) 25 (15-14, 10-10) 24 ディナモ (RUS)

[男子] 韓国 (KOR) 30 (14-15, 16-13) 28 ネバ (RUS)

[女子] 日本 (JPN) 25 (12-14, 13-13) 27 中国 (CHN)

6月5日(土) 2日目

[女子] ディナモ (RUS) 24 (8-10, 16-13) 23 中国 (CHN)

[女子] 日本 (JPN) 23 (12-14, 11-15) 29 韓国 (KOR)

[男子] 日本 (JPN) 29 (14-13, 15-20) 33 ネバ (RUS)

6月6日(日) 最終日

[女子] 韓国 (KOR) 35 (19-11, 16-15) 26 中国 (CHN)

[女子] 日本 (JPN) 30 (19-10, 11-12) 22 ディナモ (RUS)

[男子] 日本 (JPN) 22 (11-14, 11-18) 32 韓国 (KOR)

【最終順位】

■男子

優勝：韓国 (KOR) 2位：ネバ (RUS) 3位：日本 (JPN)

■女子

優勝：韓国 (KOR) 2位：日本 (JPN) 3位：中国 (CHN)

4位：ディナモ (RUS)

* 2, 3, 4位は1勝2敗で並んだため当該チーム間の得失点差で決定

【個人表彰】

MVP : 男子 チョン・ウィギョン (韓国)

女子 ウ・ソンヒ (韓国)

敢闘賞：男子 ポリャコフ・イーゴリ (ネバ)

女子 ケミロバ・タチアナ (ディナモ)

総評

川上憲太 (財) 日本ハンドボール協会専務理事

日本中にハンドボールの存在を強烈に印象づけた「北京オリンピックアジア予選のやり直し大会」そして「世界最終予選」の敗退後、直ちにロンドンオリンピックへ向けての強化対策に着手し、西窪強化本部長、男子代表監督酒巻氏、女子代表監督黄氏の新体制を敷き、早くも2年が過ぎました。ちょうどロンドンオリンピックまでの折り返し点となりました。その成果をチェックする意味で久しぶりに国際大会を開催しました。2009年から始めた日韓戦を織り込み、さらに昨年からはスタートした日露交流の具体策として常に世界のハンドボールをリードしてきたロシア協会に声掛けをして、男女強豪チームを招待しました。女子は中国代表も参加して、内容のあるマッチメイクが出来ました。本大会の目的は、第一にロンドンへ向けての日本代表チームの強化です。第二には日本のハンドボールファンやプレーヤーにトップレベルの試合を是非見ていただきたいという思いから企画しました。勝負にこだわらぬ試合内容を期待して、はじめて賞金大会としました。

試合は6月4日・5日・6日の3日間、東京千駄ヶ谷の東京体育館で行われ、男女日韓戦はWOWOWでテレビ生中継され、全国の皆様にもご覧いただけたと思います。会場は、5日(土)・6日(日)で連日4000人の観客で盛り上がりました。来賓席には高円宮妃殿下、日本オリンピック委員会竹田会長をはじめたくさんの方々がお見えになりました。

強化の観点からは、「折り返し点の重要なチェックポイント」と位置づけ、その成果を期待しておりましたが、まだまだたくさんの課題が残りました。この反省をふまえ、11月に中国で開催される「アジア競技大会」に男女チームとも「金メダルを必ず獲る」を宣言し、まずアジア大会にピークをもっていき、結果を出すための対策とりました。皆様どうぞ厳しい目で注視していただきたいと思います。

大会の運営は、日本協会スタッフを中心に、関東ブロック、東京都協会、学連他の皆さんに大変なご協力をいただき、素晴らしい大会となりました。あらためて皆様にお礼を申し上げます。

来年も強化中心の「ジャパンカップ」を企画する予定であります。是非ともご注目いただきたいと思います。皆様、これからも日本代表チームにあたたかいご声援をよろしくご願い申し上げます。

酒巻清治 日本代表男子チーム監督

2月に行われたアジア選手権において世界切符を手にし、1月の世界選手権スウェーデン大会におけ4月から強化を重ねている。今大会はアジア選手権後新しく取り組んできた体力・戦術部分でいかに勝負できるか、今秋に開催されるアジア大会並びに世界選手権に向けてはもちろんのこと、ロンドンオリンピック出場を目指して突破しなければならないアジア予選にむけて大きな意味合いを持つ大会にしなければならない。

大会当初から参加国決定に右往左往した経緯はあったものの、ロシアと韓国といったタイプの違う対戦国に恵まれたことは不幸中の幸いであった。タイプの違うといった表現は特に攻撃において違った特色に分かれるということである。特にロシアチームについては大型ではあるものの緩急を織り交ぜた丁寧な攻撃を展開するチームであって、この時期にこのようなタイプのチームと対戦できたことは現状の「判断」において最適な相手となった。

ロンドンオリンピックの出場権をかけたアジア選手権において大別される中東勢と極東勢。先のアジア選手権においては大型ポストをいかに封じ込めるかが今後の日本DFの方向性を示す大きな要因としてとらえ、昨年の日韓戦・欧州遠征と、チームと個人の責任が明確になる6:0DFをあえて採用し、挑戦し続けてきた。今大会においてある程度の成果を得ることができたことは大きな収穫である。

4月からの第一段階強化の最重要部分はフィジカルアップである。他競技からのアドバイスを参考にしながら世界選手権において大会を闘い抜くためのフィジカルを準備中であるが、まずはロシア・韓国両国に対して、もちろん十分ではないものの現段階では大変満足できる内容であった。対戦した

両チームとも大型でパワフルなポストを有していたが、強化を重ねてきた結果、個人技で簡単に失点するケースから、隣の影響を受けた時に脆さをのぞかせていたケース、さらに隣からの影響を受けながらも封じ込めるケースが増えてきた。こういった段階で進行させることができたことは今後のチームDF力向上に好影響を与える。しかし、改善すべき点もある。中心メンバーを脅かすDF力を備えたセカンドあるいは若手の育成は急務である。いまのままでは1試合は何かしのげるものの、大会を通じた強いDF力を保持するためのチーム力は備わっていない。

次にアジア選手権ではチャレンジできなかった速攻について、今大会は時間的な制約もあり回数と精度のアップにチャレンジできなかった。しかし、少ない機会ではあったがトライしたケースでは確実にゴールをゲットできているので、今後はフィジカルアップと並行して相手の「緩み」を見逃さない「狡猾さ」と「巧みさ」を身につけなければならない。今回のヒロシマ国際大会・欧州遠征では積極的にチャレンジし、結果を伴った検証を繰り返し重ねながら「武器」にしなければならない。

セットでの攻撃力においては今大会で最も残念な結果に終わってしまった。プレーの方向・パス選択の正確さ・ポジションチェンジ後のポジショニングなど、まだまだ粗削りな部分が多く現段階での強化が一番遅れているところである。前述した速攻からのスムーズな移行の中でチャンスを伺い、全てのポジションにおいて攻撃可能な状況を作り出すまで精度を高めなければならない。

2試合の敗戦はチーム・選手とも大変残念な結果であった。現段階でのゲームにおける局面でのパフォーマンスに「不均衡さ」があり、強化過程での問題点が浮き彫りになった。今後はアジア大会・世界選手権に向けチームパフォーマンスがより攻撃的に進化できるようチーム力の整備を継続して実施





する。

最後に大会に携わって頂いた全ての関係者の方々にこの場をお借りして感謝申し上げたい。

選手たちも厳しい状況の中皆様の絶大なるご支援を肌で感じながら数少ない国内での国際大会を経験し、現状認識する

ことができました。チームとしても心底大会に集中することができました。関係各位に御礼申し上げるとともに引き続きご支援ご声援頂きます様お願い申しあげ、今大会のご報告とさせていただきます。ありがとうございました。

黄 慶泳 日本代表女子ヘッドコーチ

ジャパンカップという素晴らしい大会に女子代表チームが参加して沢山の応援を頂きながら戦ってまいりましたが、大変厳しい結果だったと受け止めています。会場まで足を運んでくださった皆様、そしてマスコミを通してご声援頂いた皆様には改めて感謝申し上げますとともに申し訳ない気持ちでいっぱいです。そして、ライバル国である韓国・中国も着々と強化が進められているのを確認した大会でもありましたので、来年度のオリンピック予選を控えて危機感を抱いています。しかし、この大会で得たことを糧にして次の強化に進めてまいりたいと思います。

大会の準備について

直前強化合宿

①期間：5月17日～6月3日

②場所：味の素ナショナルトレーニングセンター

③強化ポイント

- A. 徹底したトータルフィットネス&気力強化
- B. 攻撃の新しいコンビネーションプレーの導入
- C. 新戦力の役割確認 & コンディションチェック
中村、黒木、若松、毛利、早船。
- D. JISS と連携を取って栄養調査管理をしてもらい、食事の摂り方に対する意識付けと教育
- E. JOC と連携を取って勝負脳の鍛え方に対して林先生に講義をもらい、勝負所の意識&メンタル強化
- F. U-24 と合同練習 & ゲーム

Japan Cup について

■第1戦(敗) 対 China 25 (12:14) 27

*試合前ミーティングポイント

- ①最終的なゴールをオリンピック予選とするのであれば、そこに向かうために選択した道が間違いないことを確認する大会にする。現時点で抱えているチームの課題&修正点に対して取り組んで来た部分を表現する。

建設仮設機器リース・販売

(株)パイプ・サービス

確かな品質と
実績が信頼の証です

本社
〒104-0061
東京都中央区銀座2-2-18 西欧ビル
TEL 03-3563-5601
FAX 03-3567-3820
<http://www.k-pipe.co.jp>

②感謝の気持ちと危機感を持って戦う

③組織力の発揮（ゲームマネージメント）

ゲーム中の戦術の変化を感じる&組織的な対応

④勝ち方&負け方（約束と戦術の徹底）

*結果&課題

①守りに関しては評価が出来る。しかし、利き手の守りと中央スペースの失点は、遮断を徹底できていない。

②守りから速攻に転じる時に、ハーフコートまでボールを運ぶスピードと位置取りが遅い。

③攻撃でアウトスペースのシュート成功率が低い。

④残り7分で同点の場面からチームのゲームマネージメント方問題。

⑤チームの戦う雰囲気と一体感。

■第2戦（敗）対 Korea 23（12：14）29

*試合前のミーティングポイント

①昨日の課題をイメージしたゲームの入り方が大事だ。

②利き手を徹底して守りアウトへの勝負が大事だが、今日は右側を徹底遮断して左側に展開をさせながらアウトスペースで勝負をする。（守り勝つ）

③お互いに1次逆速攻が大きく勝敗を決めるポイントとなる。（走り勝つ）

④チームの戦う雰囲気（指示に対する反応&徹底）

⑤今日の試合はメンバー交代が激しくなるので、上手に対応してほしい。

*結果&課題

①前半の守りでは狙い通りに右側への展開を封鎖していた。しかし、ポストの失点が多かったのでそこは修正するところであった。

②後半中盤のゲームが動き始めてから守りで仕掛けた部分だが、試合全体が崩れる流れになっていた。特に、激しいメンバー交代もあって選手の落ち着きがなかった。

③守りに関してはある程度計算出来るので、これからは攻撃力アップが課題

■第3戦（勝）対 Russia 30（19：10）22

*試合前のミーティングポイント

①守りに関しては強引な個人突破と縦へのパス遮断がポイントとなる。

②攻撃に関しては大きく揺さぶりアウトスペースの徹底した攻めと長身センターバックディフェンダー2人を切り離すことが必要。

③フィジカル強化と守りの強化を今回合宿で重点的に取り組んで来たので、そこを表現する。（機動力勝ち）

④気力&組織力の発揮

⑤感謝の気持ち&危機感を持って戦う。



どんなに抑えつけられても、
誰よりも
高く飛んだら

この25分×2は俺たちの
空間や——!!

スポーツドラマの名手が贈る、
ハンドボールに燃ける青春と影。
ビッグコミックスピリッツの大人気シリーズ連載!

明日のない空

第1集

全日本のエース、宮崎大輔も
大推薦で発売中!!
定価/550円(税込) 発行/小学館

明日のない空 堀内夏子

http://comics.shogakukan.co.jp/ 書店でご希望の発行本が見つからない場合は、お手数ですが店頭でご注文ください。お問い合わせ先—お客様センターTEL.03-5281-3556

＊結果&課題

- ①相手の1対1からの攻撃のきっかけに受身になって押し込まれる局面があったら戦いが厳しくなることが分かった。
- ②アウトスペースへのパススピードと視野が必要、そしてアウトスペースでのシュートの確率
- ③息が上がっている時のプレーの確実性&強かさ

課題&今後の取り組みについて

今回のジャパンカップを準備する上で、チームとしては最終的なゴールをオリンピック予選突破とするのであれば、その方向性が間違っていないことを確認する。そして現時点で抱えているチームの課題に対して取り組んでいる部分を今大会でチェック、新戦力の役割とコンディションのチェックをすることでチーム全員の意思統一を図った。

大会直前まで、フィジカル強化と気力の強化にポイントを置いてトレーニングをし、戦術においては、守りの基本ベースの作りと攻防の切り替えの速さが主であった。

今回新しく加えて来た戦力に、今までの戦いと考え方を落とし込むと同時に全体のフィジカル強化が狙いであったので、そこは結果としてまだ不十分であるけれど現時点での通過点としては手応えを感じている。トータルフィットネス強化に関しては、筋力と走力のテストにもまだ最終的な目標値

には達していないが、具体的に数字が上がって来ているので、選手自身の実感と成功体験をしていると感じる。

今後の取り組みについては、今回の結果に関しては厳しい状況であることをしっかりと認識した上で危機感を持って取り組んでいきたい。韓国との最後の勝負を考えている段階で、守りに関しては計算できる部分が少し見えて来たが、攻撃に関してはこれからしっかりと時間をかけて韓国に勝つ組織を作らなければならないと感じている。

勝負年を迎える段階で、更なるトータルフィットネス強化は勿論、守りシステムの確立、攻撃力&アウトスペースでの得点力アップ、戦い方と戦術の変化に必要な選手を固める作業、組織力強化をしなければならないと考えている。

女子代表チームは今回の結果を真摯に受け止めて、更なる飛躍のためには国内だけに留まらず色々な人の力と知恵が必要だと感じています。私自身が視野を広げて多方面からアプローチ出来る環境を作りながら、チームを強化しなければならないと考えています。

念願のオリンピック出場に対する皆様のご期待に応えられるように、また新たな気持ちで頑張ってまいりますので、これからも引き続き女子代表チームのご声援をよろしくお願い申し上げます。





滋養強壯 虚弱体質
肉体疲労・病後の体力低下・胃腸障害・栄養障害・発熱性消耗性疾患・妊娠授乳期などの場合の栄養補給



元気、やる気 笑顔、湧く。

医薬品



シオピン
シオピン

医薬品



キョレピン
KYULEPIN
LIQUID

wakunaga 株式会社 <http://www.wakunaga.co.jp>

お取扱い店のお問い合わせは **TEL 0120-39-0971**

受付時間 月～金(祝日を除く)9:00～17:00(12:00～13:00を除く)

ジャパンカップの会場から —ハンドボール観戦という非日常—

この頁では三流ハンドボーラーである筆者の目から見たジャパンカップを通じて、「観るスポーツ」としてのハンドボールが持つ一面を紹介できればと思う。

場外および場内の様子

大会初日、開場十分前の体育館入り口。平日の昼間だけに、並んでいる人は数えるほどだったが、中には応援用の青Tシャツに身を包みひとり開場を待つ猛者もいた。開場後しばらく経っても席は一向に埋まらない。試合開始までに、アリーナ席には数十名、スタンドには難なく数えられる程度の数の観客が入っていた。試合開始の20分ほど前に、場内大画面にルール紹介映像が流された。BGMとともにゴールシーンが連続し興奮する内容だったが、平日の昼間からハンドボール観戦に来るようなフリークの関心はコートでアップを行う韓国代表およびディナモ（ロシア）に向けられている。

このように初日の体育館の情景はいささか寂しいものだったが、大会二日目以降（土・日）の体育館前には今や遅しと開場を待つ観客の行列ができていた。青Tシャツに身を固めた集団が整然と入場していく様は大変頼もしく見えた。そして開場後十分ほどでアリーナ席はほぼ埋め尽くされた。

場内の出店をのぞいてみた。体育館に常設された売店とは別に、日本協会が契約した業者の出店がある。シャツや旗などの応援グッズ、ボール・靴などといったハンドボール用品が陳列されている。代表ユニフォームを模した携帯ストラップなどもある。ハンドボールにちなんだ小物類はこういった場所ではか手に入らないだろう、と思うと財布のひもが緩むのが人情である。二日目以降のこの売店は、試合時以外は絶えずファンでにぎわっていた。



試合—湧きあがる「にわか」愛国心

試合前のセレモニー。選手がしずしずと入場してくる。選手・スタッフ・レフェリー・テクニカルデレゲートが紹介されたのち国歌が演奏され、両チームのペナントを交換。そしてお待ちかねのサインボール投入という流れである。上述の通り、初日の観客数はほんのわずかだった。特に韓国—ディナモ戦の折には観客の数が少なく、投げ込まれたボールは観客一人一人に行き渡ったようにさえ見えた。平日から頑張っ



て観に来れば、こういう良いこともあるようだ。

これが二日目以降、特に日本戦となると一変する。二階スタンドまではおおよそ埋め尽くされている。日本戦ということで場内実況がスタンドを盛り上げ、大会パンフレットをかざすよう呼びかけ始めた。そういえばパンフレットの外面は青かったな、と思う間にスタンドは青色に染まった。日本選手が紹介される度に青い旗が振られ、大声援とともに鳴り物の音が響く。そしてニッポンコール。巨大ユニフォームがスタンドに登場したりもする。少数ながら韓国応援団も負けじと声援を送っている。こういった盛り上がりは試合中も続くのである。その場限りの愛国心が湧きあがるのを感じ、サッカーでも野球でもなく、他でもないハンドボールを通じてこういった興奮を味わえる喜びに浸る。

試合の合間に—お隣は有名人

ところでハンドボール観戦の楽しみ方の一つとして、個人的には会場内を徘徊することをおすすめしたい。ハンドボール界は狭いものだから、大きな大会に来れば知人に遭遇する可能性が高い。また、現役の日本リーグ選手や伝説の選手・指導者がさりげなく観客席にいることも多々ある。そこで、大変ミーハーな趣向ではあるが、この際に思い切ってお近付きになることもできる（ご本人のお邪魔にならない限りで）。だから筆者としては、試合間の空き時間には場内をぶらついてみることを推奨する。寡聞にして他の競技の事情は知らないが、少なくともハンドボールの大会ならそういう楽しみ方が可能である。

観戦を終えて—宴のあと

全試合が消化され表彰式が終り、ジャパンカップは幕を閉じた。既に観客席の人影はまばらになっており、先の盛り上がりか嘘であったかのような。先ほどまで試合が行われていたコートに目をやると撤収作業が始まっている。まさしく「宴のあと」といった風情である。出口に向かう観客たちは、非日常から日常へと帰っていくように見えた。

入場料を高いと見るか安いと見るかは主観による。なるほど試合自体の価値は両チームのパフォーマンスによって左右される。締まりのない試合になれば、「入場料を返せ」という心境になる。それでも、試合以外の部分に楽しみを見出すことができれば、試合内容に関わらずある程度は元をとれるはずだ。ハンドボールの大会にはそういった工夫が施されているし、今後も工夫が重ねられていくと思う。

つまり何が言いたいのかというと、余暇としてのハンドボール観戦を提案したいのである。